

自分の好きなこと・得意なことを生かした仕事で事業所・利用者の人に笑顔になってもらおう ～自分の力をどう生かせば社会に貢献できるのか?～

本単元での情報活用能力の具体

【情報の収集】手法18：実地調査で情報を収集する

- 1 日 時 令和7年9月30日(火) 5校時 13:30～14:25
- 2 場 所 2年A組教室
- 3 学年・学級 2年A組・WA組・WB組 32名(男子14名 女子18名)
- 4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、三原市の中学校2年生を対象に実施される職場体験学習を中核にした単元であり、第2学年での探究テーマは「職業(地域の事業所)」である。この単元における実生活や実社会の課題を解決し、社会に還元している姿は、職場体験学習をさせていただき事業所の困りごとを自分の好きなこと・得意なことを生かして、解決している姿である。

この単元の本質的な問いは、「自分の力をどう生かせば社会に貢献できるのか?」である。また、この問いを生徒と共に考えるために、単元を貫く問いを「自分たちは、何を目的に、どう働きたいのか?」と設定した。

(2) 生徒観

生徒は、1年時に「米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう。」という単元を学習した。この学習では、1つの課題を学年全員で解決する学習場面や、自分の好きなこと・得意なことを生かしてグループを分け、各グループがそれぞれの課題を解決する学習場面を展開してきた。本単元導入時に実施したアンケートの結果を表に示す。

表 アンケート結果

No.	質問	肯定的回答率
1	中学校1年生の米粉の取組では、自分らしさを発揮して社会に貢献することができましたか。	86.2%
2	自分らしさ(好きなこと、得意なこと)を理解していますか。	79.3%
3	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	89.7%
4	これまでの学年で受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	65.5%
5	自分らしさを発揮して社会に貢献することができますか。	37.9%

この結果と昨年度の指導内容を踏まえて、生徒の現状を次のように考察した。

1点目、地域や社会の問題を解決したいという気持ちを持っているが、これまでの問題解決では、自分から取り組むことができている生徒は6割程度に留まっている。この原因として、個人の興味・関心に応じた課題を設定することができていないこと、また、学習形態が学年単位の取組になっており、全員一律の課題設定となっていたことで自分事として取り組めていなかったことが考えられる。

2点目、約8割の生徒が自分の好きなことや得意なことを理解しているが、その良さが社会貢献をする術として生かすことができると考えている生徒が約4割にも満たなかった。この原因として、大人がなぜ働くのか、大人がどんな力を生かして働いているのか、考えたり情報を収集したりしたことがないだけでなく、自分が働

いている姿を想像したことがないことが考えられる。

(3) 指導観

この単元の中で、探究が自律的に行われるようにするために、次の4点に留意する。

1点目、事業所の問題を取り上げ、「社会参画」の考えを醸成することである。2学年では、1学年の地域特有の問題から実社会の複雑な問題により近づけるために、探究テーマを「職業」とし、大和町の事業所や利用者が抱える困りごとの解決に向けたプロジェクト型学習を実施する。地域の事業所で実地調査したり、事業所の方と解決策を話し合ったりしながら困りごとを解決する中で、社会に貢献する喜びを実感させ、今後、どうやって社会に貢献していくかについて考えさせる。

2点目、1年時の探究を自分事として取り組めていなかった生徒がいることを踏まえ、「職業人インタビュー」を通して「自己課題」を高めることである。働くことを自分事に置き換えてもらうために、1サイクル目に職業人インタビューを実施する。事前に、職業人インタビューのゲストティーチャーと教員が連携を取り、生徒からの質問に加えて「大人がどんな力を発揮しているか」「大人がどんな目的で働いているか」「大人が様々な目的で働いていること」を話していただくだけでなく「職場体験学習がそれらを考える良い機会になること」を投げかけていただく。ゲストティーチャーの話を自分に置き換えて考えるようにすることで、職場体験学習をより自分事として取り組めるようにする。

3点目、自分の好きなこと・得意なことを社会貢献に生かすことができないと考えている生徒がいることを踏まえて、「自分の好きなこと得意なことを生かせる困りごとの選択」を通して「自己課題」を高めることである。事前に職場体験先の事業所と教員が連携を取り、事前アンケートで調査した生徒の興味や特技などが生かされる困りごとを各事業所に用意していただく。2サイクル目の活動では、自分の好きなこと・得意なことを生かせる困りごとを選択させ、事業所ごとに準備を進める。これにより、学年で一律の課題選定から事業所ごとの課題設定となり、1年時と比較してより自律した探究に近づくようにする。

4点目、1年時の探究の過程を振り返る活動を通して、一人一人の「運用」の力を高めることである。2サイクル目以降は、事業所ごとの課題設定の場面となる。その際に、1年時の取組をまとめた大阪・関西万博での発表資料や2年時のこれまでの授業資料を確認する機会を設ける。また、他のグループの活動も参照できるように共有ドライブを整理する。これにより、これまでの学習や他者の考えを参考にすることで、生徒が解決の過程に見通しをもち、自分の力で進められるようにする。

5 単元の目標

- 事業所・利用者の困りごとを解決する職場体験学習を通して、仕事の中には自分の好きなこと・得意なことを生かせる業務があることを理解し、困りごとを解決する方法を考えるとともに、生活や社会の中から、自分で解決できることを見つけることができるようにする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【①知識】 仕事には、たくさんの業務があり、その中に自分の好きなこと・得意なことを生かせる業務があることを理解している。 【②技能】 自分の好きなこと・得意なことを生かして、事業所や利用者の目的に応	【④課題の設定】 職場の困りごとを解決するための成果物について、何をどのように調べ、解決するか見通しをもって計画を立てている。 【⑤情報の収集】 職場の困りごとを解決する企画書を作成するために必要な情報を効	【⑧-1 自己理解】 これまでの自分の生活を見直し、自分の好きなこと・得意なことを理解しようとしている。 【⑧-2 他者理解】 解決方法について異なる意見や他者の考えを聞き入れようとしている。

<p>じた成果物を製作している。</p> <p>【③探究的な学習のよさの理解】 自身の成長や働くことに対する認識の高まりは、探究的に職場体験学習に取り組んできたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>率的に収集する手段を選択している。</p> <p>【⑥整理・分析】 職業インタビューでの複数の職業の方の話を比較して、共通点や差異点を見付けている。</p> <p>【⑦まとめ・表現】 事業所の方との合意形成を目的に、企画案を効果的に伝えている。</p>	<p>【⑨主体性・協働性】 自分の意思で事業所の困りごとの解決に向けて、取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力して成果物の製作に取り組もうとしている。</p> <p>【⑩将来展望・社会参画】 職業との関わりの中で自己の生き方を考え、生活や社会の中から、自分の好きなこと・得意なことを生かして、自分で解決できることを見つけようとしている。</p>
---	---	--

7 本単元での情報活用能力の具体

本単元では、事業所に困りごとを解決するための企画書を作成するために、事業所に出向き、事業所や利用者にインタビューをしたりアンケートをとったり、利用させてもらう施設の広さや使えるものを写真に収めたりした。



施設の広さや使えるものを写真に収めている様子



インタビューを実施している様子

8 指導と評価の計画（全 50 時間）本時 46/50

次	時	学習内容	生徒の思考の流れ	観点			単元の評価規準 (評価方法)
				知	思	主	
一	1	目標：職場体験学習でどのように社会貢献できるかシミュレーションしてみよう。					
		○職場体験学習を通して考えてもらいたい問いを発表し、働いている姿をイメージする。	・将来働くことは考えていたが、具体的なイメージを持ってないな。 ・今のままでは、イメージがはっきりしないから、実際に働く大人から話を聞こう。				
	2	目標：職業人インタビューで聞く内容を考えよう。					
		○職場体験学習で自分が働く目的、方法を考えるために必要な情報を考える。	・大人はどんな目的で働いているのだろう。 ・どんな力を生かしているのかな？				

	3	目標：職業人にインタビューをして、必要な情報を収集しよう。			
	～ 7	○職場体験学習で自分が働く目的、方法を考えるために必要な情報をインタビューで収集する。	・大人は、好きなこと・得意なことを生かして働いているんだな。 ・働く中で、苦手が得意に変わることもあるのか。 ・「社会貢献」とは「人を助ける」ということか。		
	8	目標：インタビューで収集した情報から、自分が職場体験学習でどのように社会貢献したいか考えてみよう。			
	9	○インタビューで収集した様々な情報から共通点を見付け、職場体験学習で自分が働く目的、方法を考える。	・職業人の共通点は、自分らしさを生かして働いていることだ。だから、自分は運動が得意だから、この能力を生かして社会貢献をしたい。	⑥	⑧ 職業インタビューでの複数の職業の方の話を比較して、共通点や差異点を見付けている。 【⑥整理・分析】(課題スライド) これまでの自分の生活を見直し、自分の好きなこと・得意なことを理解しようとしている。【⑧-1自己理解】(課題スライド)
二	10	目標：大和町の事業所の方から仕事をする上での困りごとを聞いて、体験先を選ぼう。			
		○困りごとリストから、生かせそうな力を考え、自分らしさを発揮できそうな事業所を選ぶ。	・この困りごとは、イベントの企画を考えたりする力が生かされるな。 ・自分は文章を考えるのが得意だから、POP作りを通して、事業所の知名度を上げていきたいな。		
二	11	目標：今後取り組むべきことって何だろうか？			
		○職場体験学習に向けて、今後取り組むべきことを考える。	・これまでも、まずは調べるところから始めたな。客層などの実態を知るために直接出向いて、実地調査したいよね。 ・収集した情報をもとに、自分たちの案が効果的で実現可能か分析しないとイケないね。 ・いきなり本番で披露するのは心配だな。確認してもらうためにプレゼンをしよう。	④	職場の困りごとを解決するための成果物について、何をどのように調べ、解決するか見通しをもって計画を立てている。【④課題の設定】

三	12	目標：企画書作成に必要な情報を収集するために、体験先で実地調査する内容を考えよう。				
		○実地調査で収集すべき情報を各体験先のグループに分かれて、意見を出し合う。	・5歳児が誰でも知っている曲を使わないといけないよね。園児にインタビューしてみよう。 ・POPのデザインを考えると、お客様の年齢層は必要な情報だね。			
	13	目標：事業所を訪ねて、実地調査をしよう。				
	～ 14	○事業所を訪れて、インタビューや環境調査などで必要な情報を収集する。	・いま5歳児に流行りの曲は○○なのか。 ・仕事の休憩に訪れる人が多いね。お昼ご飯を買うためかな？		⑤	職場の困りごとを解決する企画書を作成するために必要な情報を効率的に収集する手段を選択している。【⑤情報の収集】(インタビュー)
	15	目標：実地調査で収集した情報を整理し、最適な案が何かを分析してみよう。				
	～ 16	○アンケート結果を分析する。 ○事業所の方にプレゼンをする案をブラッシュアップする。	・○○の曲は5歳児のダンスには向いてないかもしれないね。△△の曲なら、運動を楽しみながら、5歳児でも踊れそうだ。			
	17	目標：企画書を作成して、事業所の方々にプレゼンしよう。				
	～ 20	○分析した情報を踏まえて企画書を作成する。 ○事業所の方へのプレゼンを練習する。 ○事業所の方へ、企画案のプレゼンをする。 ○事業所の方から意見をもらう。	・事業所の方に「その企画でいこう」と思ってもらえるようにプレゼンをしよう。 ・概ね受け入れてもらったが、デザインを考え直す必要があるな。		⑦	事業所の方との合意形成を目的に、企画案を効果的に伝えている。【⑦まとめ表現】(プレゼン)
	21	目標：事業所の方から評価を踏まえて、今後取り組むべきことを考えよう。				
	～ 22	○事業所の方からの評価をもとに、現時点での課題を出し合い、今後の見通しをもつ。	・POPのデザインはこのままでよいのだろうか？ ・個々の利用者の方にもっと寄り添えるレクを自分たちだけで考えるのは難しいから、これまでお世話になった専門家に相談しよう。			
	24	目標：専門家に企画書を見てもらい、助言をもらおう。				
	～ 25	○それぞれのグループにとって必要な情報を専門家より学ぶ。	・助けてくれる人がいることで、学びが深まっているな。		⑧	解決方法について異なる意見や他者の考えを聞き入れようとしている。【⑧-

					2 他者理解】(行動観察)
26	目標：助言をもとに、成果物の準備をしよう。				
～ 32	○講師からの助言をもとに、成果物を作成する。	・もらった情報をもとに、企画をブラッシュアップしてより良い成果物を作るぞ。 ・他のグループの進め方も参考になるな。	②		⑨ 自分の好きなこと・得意なことを生かして、事業所や利用者の目的に応じた成果物を製作している。【②技能】(成果物) 自分の意思で事業所の困りごとの解決に向けて、取り組もうとし、自分もしくは他者の良さを生かしながら、協力して成果物の製作に取り組もうとしている。【⑨主体性・協働性】(行動観察)
33	目標：職場体験先で自分らしさを生かして、社会貢献しよう。				
～ 43	○職場体験学習の中で成果物を披露する。 (企画の実施、ブースづくり、POP貼り付け等)	・自分の成果物でたくさんの方が笑顔になってくれたな。こういう充実感を今後の人生でも味わっていききたいな。 ・職業人インタビューで、○さんが言っていたことがわかったぞ。 ・自分が成長できたのは、これまでお世話になった方々のおかげだから、この学びの成果を報告したいな。	①		仕事には、たくさんの業務があり、その中に自分の好きなこと・得意なことを生かせる業務があることを理解している。【①知識】(ワークシート)
44	目標：活動を振り返り、これからの自分の生き方を考えてみよう。				
～ 50	○これまでの取組をまとめ、協力してくださった方への報告書を作成する。 ○報告会を実施する。	・職場体験前後でウェビング図を比較すると、働くことに対する考えが広がっているな。 ・活動の中で自分は、人前で堂々と話せる力を発揮して、困っている人に解決案を提案することができた。 ・自分の得意なことを生かして、困っている人を助けたり、よりよい社会を作っていきたい。	③		自身の成長や働くことに対する認識の高まりは、探究的に職場体験学習に取り組んできたことの成果であることに気付いている。【③探究的な学習のよさの理解】(報告書)

	○ 1年間の取組を振り返る。	・他の人の報告を聞いて、自分の力は、この業種だけでなく別の業種でも生かすことができそうだな。 ・自分の力を生かして、誰かと協力しながら、問題を解決できて、充実感を得ながら働きたいな。		⑩	職業との関わりの中で自己の生き方を考え、生活や社会の中から、自分の好きなこと・得意なことを生かして、自分で解決できることを見つけようとしている。【⑩将来展望・社会参画】(ワークシート)
--	----------------	--	--	---	--

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 事前学習・職場体験学習を振り返り、「何を目的にし、どのように働きたいか」表現できる。

(2) 本時の評価規準

- 自身の成長や働くことに対する認識の高まりは、探究的に職場体験学習に取り組んできたことの成果であることに気付いている。【③探究的な学習のよさの理解】

(3) 本時の評価基準

十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
職場体験学習を通して、資質・能力の変容を自覚することや勤労に対する認識が高まること、学習が将来働く姿とつながることに気付いている。	職場体験学習を通して、資質・能力の変容を自覚することや勤労に対する認識が高まること、学習が将来働く姿とつながることのいずれかに気付いている。	Bを満たしていない。

(4) 本時の学習展開

	学習活動	○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への指導の手立て	◇教科の評価規準 (評価方法)
導入	1 前時の内容を想起する。	○前時の学習を振り返り、報告書を作成するためのポイントを確認する。	
	2 学習目標・内容を把握する。		
本時のめあて：これまでの学習を振り返り、将来の働き方を考えよう。			
展開	3 報告書の作成を通して、「自分たちは何を目的に、今後どのように働きたいか」を考える。 【報告書を作成するためのポイント】 ① 自分らしさを発揮した場面 ② 事前学習・職場体験学習を通して、今まで気付くことができなかった新たな発見 ③ ①・②を踏まえて将来、仕事や生活で生かしていきたい場面	○教師は報告書を作成するためのポイントをもとに助言を行う。①「どの場面でのどのように働くことができたか」 ②「どの場面でどんな成長があったと思うか」③「①・②を踏まえて将来、仕事や生活で生かしていきたいか」と問い返す。 ◆報告書のポイントをまとめたヒントスライドや報告書の雛形をクラスルームにアップしておく。 ◆職場体験学習前後のウェビング図を生徒と共に比較し、変化しているところから生徒の成長の具体を引き出す。	◇自身の成長や働くことに対する認識の高まりは、探究的に職場体験学習に取り組んできたことの成果であることに気付いている。【③探究的な学習のよさの理解】(報告書)

ま と め	<p>4 R80 を記入する。 R80 をシェアリングする。</p> <p>例)「報告書を作成することで、これまでの成長を具体的にまとめることができました。さらに、将来の働く姿について見えてきたので、次回それがより具体的になるように考えたい。(77文字)」</p>	<p>○振り返りの視点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長 ・次回への見通し <p>◆R80 の雛形を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書を書くことで、自分の～の成長に気付くことができた。例えば、～である。 	
-------------	--	---	--

(5) 板書計画

<p>本時のめあて：これまでの学習を振り返り、将来の働き方を考えよう。</p>	
<p>【本時の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画書の作成 ・振り返り (R80) <p>【報告書に入れる内容とルール】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分らしさを発揮した場面 ② 事前学習・職場体験学習を通して、今まで気付くことができなかった新たな発見 ③ ①・②を踏まえて将来、仕事や生活でいかしていきたい場面 	<p>支援を要する生徒の ための板書スペース</p>